

- 生史料はじめました。  
-[企画展]・【小展示】解説！！-
- 新しいかたちの川崎市史(川崎の歴史の本)の  
出来上がっていく様子等を情報発信していきます！！
- くずし字 読めるかな？  
-川崎市公文書館主催 入門古文書講座のお誘い-
- 講座・講演会 後記  
-中級古文書講座を終えて-
- 出来事とお知らせ  
今後の行事予定／開催中の展示／令和7年度の主な活動

生史料  
はじめました。

# 生史料はじめました。

－【企画展】・【小展示】解説！！－

【企画展】あなたに伝えたい記録と記憶

## 第20回 川崎と国勢調査



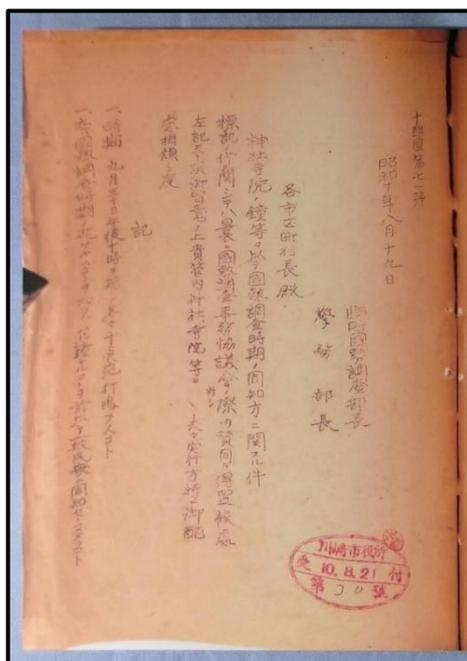
「第一回国勢調査記念章」(大正10年:勅令第272号制定)当館所蔵(収集資料)  
※展示に際して、新たに寄贈者様よりご寄贈頂きました。

今回の「生史料はじめました。」では現在開催中の企画展・小展示を紹介します。

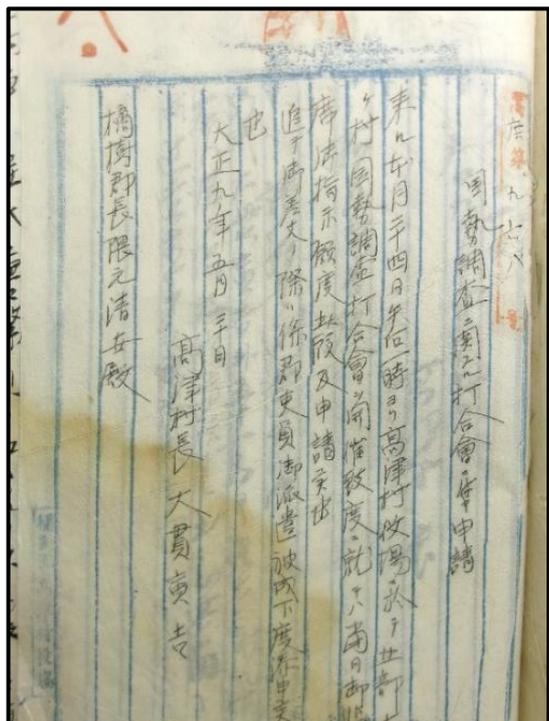
今年度3月31日まで開催の企画展「川崎と国勢調査」では、大正9(1920)年からはじまる「国勢調査」の歴史を川崎市の歴史的公文書や市政資料から振り返ります。今年度実施された「国勢調査」ですが、国勢調

査は過去・現在において人々の労働実態や生活などを調査すべく実施され、現在も施策策定や施行、民間企業の需要予測や研究機関で幅広く活用されています。

「国勢調査」は当初「現在人口主義」が採用され、「特定日時にどこにいるのか」という考え方のもとで調査が実施されました。たとえば、「10月1日の午前零時にあなたはどこにいましたか?」、これを記入するものとなっていました。これは戦後常住地の記入へと改められますが、それまで「国勢調査」では「時間」が重要な意味をもっていたわけです。神奈川県提案のもと、昭和10年(1935)の川崎市でも「国勢調査」の時を知らせる鐘を鳴らすなど、「時間」を知らせる宣伝事業が企画されていたことが分かっています。



「神社寺院ノ鐘等ヲ以テ国勢調査時期ノ周知ヲ圖ルル件」(昭和10年8月19日)  
当館所蔵(歴史的公文書A199)



「国勢調査二関スル打合せ二付キ申請」(大正9年5月20日)  
当館所蔵(歴史的公文書1-2-G-1)

こうした宣伝やわかりやすさに対する工夫、調査員の行程、その時々の特徴など川崎市ではどのように「国勢調査」が実施されてきたのでしょうか? 当展示ではこれら宣伝事業について多くのこる昭和10年の史料もパネル展示で交えつつ、橘樹郡で開催された最初の「国勢調査」史料から戦後最初の「大規模調査」までを取り上げ、国勢調査の移り変わり、その様相を展示しています。

また、現在当館では企画展とは別に小展示「川崎」を探せ！ ランキングの江戸時代」も開催しています。小展示では「見立番付」にランクインする江戸時代「川崎」に注目、国立国会図書館所蔵の「諸国豊作競」と題した「見立番付」をパネル展示しています。

そもそも「見立番付」とはどのようなものなのでしょう。

江戸時代、「番付」として広く知られていたもの

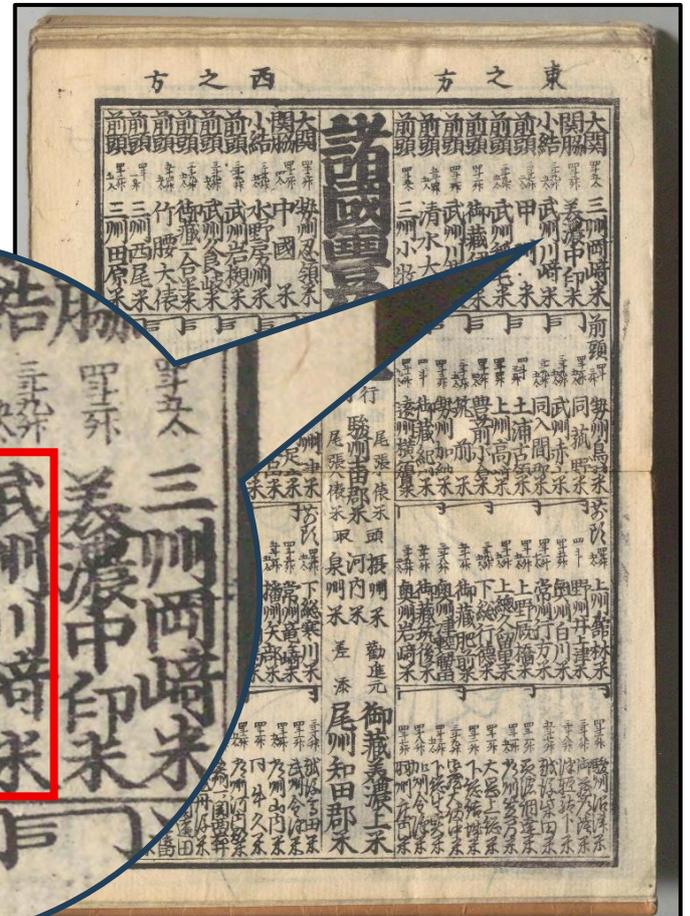
として「相撲番付」があり、このほか「芝居番付」や「神社祭礼」にかかわる「行列番付」などがありました。

そして、「小結」「関脇」といったこれら番付の示す

肩書と格付けを利用し、多種多様な題材を格付けて見せたもの

が「見立番付」と呼ばれます。「見立番付」は江戸時代中ごろから登場し、大坂・江戸などの都市部を中心に作成・流通・展開したとされます。長者番付・名産物・町医者・両替商・お酒・名所旧跡・名刀・仇討ちなど、取り上げられた題材もさまざまでした。また、たとえば江戸版の「見立番付」に登場する名産物が、大坂版では名前が見当たらないといった、同一テーマであっても都市によって取り上げられる産物が大きく異なることもありました。これは、その地域で取り扱われた産物、商業活動や流通の規模・範囲を反映していたとされます。

今回の小展示ではこの「見立番付」の見方や背景を解説しつつ、「諸国豊作競」という一枚摺りの摺物から「武州六郷米」「武州川崎米」など「米どころ」としてイメージされる武蔵国を取り上げています。



『江戸自慢』[12], 刊, 嘉永・安政頃。国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/11223260> (参照 2025-12-20)、参照・加工。

### 川崎市に関わる「古文書」を探しています

当館では、川崎市に関わる江戸から昭和期までの「古文書」など、歴史資料をひろく調査・収集しています。よく分からない、または置場がなくて困っている「古文書」などがご自宅にごございましたら、是非当館までご連絡、ご相談ください。歴史担当が懇切丁寧に対応いたします。なお、相談以外にも「古文書」の所在地についても情報提供を受け付けています。貴重な「古文書」が散逸してしまうことを防ぎ、川崎市の歴史を語る「古文書」を守っていくため、皆様のご協力を何卒いただきたく、宜しくお願いします。

## 新しいかたちの川崎市史(川崎の歴史の本)の 出来上がっていく様子等を情報発信していきます！！

### ■「れきしのナゾに挑戦！」 小学生ワークショップ開催しました！

令和7年7月に、市内在住の小学生合計16名が参加し、記者として川崎の海苔づくりの歴史と神奈川県最古のお寺の影向寺の歴史や伝承を取材しました。また8月には取材で取り組んだ結果を市長へ報告しました。今後、小学生記者が取材した内容は記事にまとめ「川崎の歴史の本」に掲載します。



小学生記者たちは2つの班に分かれ、川崎の海苔づくりの歴史を取材し、殿町小学校の海苔資料室に舟が置かれている理由が、海苔づくりを今に伝える活動のためであることが分かりました。



また、影向寺の歴史や伝承を取材し、絵馬に「めめ」と書かれている理由が、昔の人が眼病の平癒を祈願したものであることが分かりました。

### ■ 編集懇談会を開催しました！

令和7年7月と9月に、それぞれ第5回と第6回の編集懇談会を開催しました。

この2回の懇談会での議題は主に3つです。

1つ目は本のデザインの考え方について（こちらは2回に跨った議題です）。

第5回では、市民アンケートや、編集懇談会での意見・アイデアを踏まえたデザイン案を見て、「情報を読み取りやすく、川崎の歴史に興味をわくか?」「対象読者によく合ったデザインになっているか」といった観点から、改善点や気づいたことを話し合いました。

実物大の見本を手にした委員からは「興味が湧くデザインになっている」「(ページごとに) すごく変化があるので、飽きずに全部読めるといった」「読みやすくて、ワクワクするデザイン」と評価をいただきました。

一方で「文字が小さくて見づらいかも」「写真はもう少し大きいほうが見やすいのでは」「適切にルビ(ふりがな)もふっては」など改善のアイデアをいただいたほか、「より詳しい情報や資料に飛べるような(リンクを示す等の)仕掛けがあると非常に良い」といったアイデアもいただきました。いただいた意見等を反映させ、本のデザインを改修しました。

そして第6回は、改修後のデザイン案を確認いただき、委員からあらためて「デザイン文字の視認性を考慮してほしい」「街歩きマップには地図をダウンロードできるリンクをつけてほしい」などのご意見やアイデアをいただいたほか、「配色の考え方が整理された」と評価もいただきました。

2つ目の議題は10月～11月に実施する市民アンケートについて。アンケートでより多くの市民の関心と呼ぶためにどうすればよいかについて意見交換を行ったところ「本に関するオリジナルグッズを景品にする」、「市史の一部を印刷したうちわを配布する」などのアイデアをいただきました。

3 つ目の議題は、市民から公募した本のタイトルについてです。

川崎の歴史の本を作っていく上で、特に重要な要素である「本のタイトル（書名）」については、市民のみなさんの意見を反映させるため、令和7年1月～2月に開催した市民ワークショップでタイトル案（川崎のキャッチコピー）を考えたほか、同年4月～7月には本市ホームページでタイトル案を募集しました。

それらの応募総数497件のタイトル案から、使用頻度の高いキーワードや書名に込められた思いなどの市民がイメージする書名の傾向を分析した、6つの素案を提示しました。

懇談会ではその6つの素案について「歴史という時間軸が読み取れたほうが良い」「漢字、平仮名、カタカナの文字表現や、文字数、デザインにも考慮してほしい」「パツと言える語呂の良さがあると良い」「書店で見たときに手に取りたいと感じるか」などの数多くの意見やアイデアをいただきました。



## ■市民アンケートを実施しました！

令和7年10月～11月に市内で開催された7つのイベント、「あさお区民まつり」「多摩区民祭」「幸区民祭」「なかはら“ゆめ”区民祭」「みんなの川崎祭」「KIRARIFES（キラリフェス）」「宮前区民祭」の会場ブースを出展し、来場者向けにアンケートを実施しました。

実施したアンケートは2種類です。

1つはパネルにシールを貼ってもらう形式の書名投票です。4月～7月に行ったウェブでの本のタイトル案募集を経て、編集懇談会からの意見やアイデアを踏まえ、事務局での検討を重ねた結果、「川崎歴史100年」、「カワサキノキセキ～みんなでつむぐ川崎の歴史の本～」、「カワレキ～私たちがつなぐ川崎の歴史～」の3案に集約し、催事会場では、この3案の中から本書にピッタリと思う書名案にシールを貼って投票していただきました。



もう1つは「『川崎の歴史の本』を広く知ってもらうアイデア」を募集するWebアンケートです。「川崎の歴史の本」は、令和9年度中に発行を予定しており、文化やスポーツ、街歩きなどの多彩な内容を盛り込んで、川崎の歴史を身近に親んでもらえる内容にしていきます。今後、より多くの方々に手に取ってもらえるよう、今回のアンケートで頂いたアイデアをもとに、告知方法や、発行の手法についてさらに検討を深めてまいります。

## ■書名が決定！

編集懇談会の意見やアイデアを参考にしつつ3案程度に絞った上で、10月～11月に書名投票を実施し、市民のみなさんの投票によって、本のタイトルが「川崎歴史100年」に決定しました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

# くずし字 読めるかな？

—川崎市公文書館主催 入門古文書講座のお誘い—



みなさん、左の文字が書かれた看板を街中で見たことはありませんか。「見たことはあるけど、読めない、、、」、そんな方が多いのではないのでしょうか。

ここに書かれている文字は「楚者処」です。そして、これは「そば処」と読みます。つまり、この看板は蕎麦屋を示すもので、現代でもこうした看板を掲げるお店を時々見かけますね。

さて、ではなぜ現代の私たちは、この字を簡単に読めないのでしょうか。これを解読できるようになるには、大きく二つ、①活字とは異なるくずし字と、②現代は通用していない変体仮名に慣れなければなりません。今回は後者の「変体仮名」に注目して、簡単に解説をしようと思います。

## 「ひとつの音を示す「仮名」は「1字」だけである！」

皆さんにとってのこの当たり前は、私たちが「仮名」を使用し始めた平安時代（9世紀）から現在までの約1000年間のうち、わずかに直近100年に過ぎません（1900年制定「小学校令」以降）。

現代の平仮名「あ」は、「安」を原型（字母）にこれを少しくずして成り立ちます。しかし、明治時代の中頃までは、「安」以外に「愛」、「阿」、「悪」などを書いて、仮名の「あ」として扱っていました。先ほどの「楚（そ）」や「者（は）」も同様で、これら現代の平仮名とは異なる字母を使用する仮名を「変体仮名」と呼びます。これは、古文書の解読に必須の知識のひとつです。

今回引用した「江戸名所図会」は、江戸時代に刊行された観光案内で、川崎宿や川崎大師など、現在の川崎市域に関係する場所も複数掲載されています。

なかでも、「河崎 汐浜」では、沿岸部での製塩（塩焼き）の様子が克明に記されます。その解説文を右にあげましたが、広く読者を想定してか漢字にはルビがみえます。現代の私たちにとっては、とても解読が難しいものといえるでしょう。

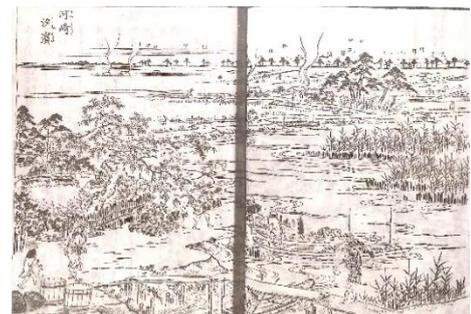
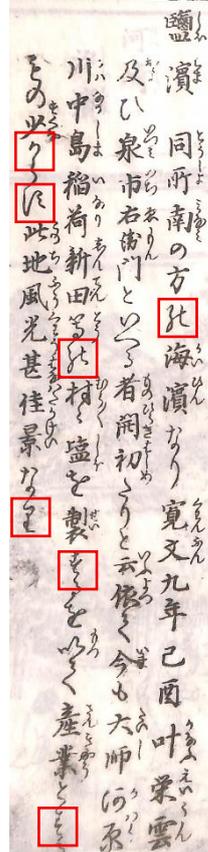
さて、ここで多用されるのが「変体仮名」です。ここでは、現在とは異なる「字母」を使用する「変体仮名」のみを「□」で穴あきにしました。これらは、くずし字でも書かれていますので、まずは前後の読める部分から声に出して読み上げてみましょう。

つぎに、前後の文章から「□」入る「音」を予測します。そして、予測した「音」を手がかりに、その「音」で読む「字母」の一覧をながめ、かたちの類似する変体仮名を探しましょう。

回答は8頁に掲載しています。やはり一朝一夕には読めるようにはなりません、なかには予測が正解した方もいるのではないのでしょうか。



塩浜 同所南の方①□海浜なり 寛文九年己酉叶栄雲・  
及ひ泉市右衛門といへる者開初たりと云 依て今も大師河原・  
川中島・稲荷新田等②□村々塩を製③□るを以て産業と④□る  
もの少⑤□ら⑥□ 此地風光甚佳景なり⑦□

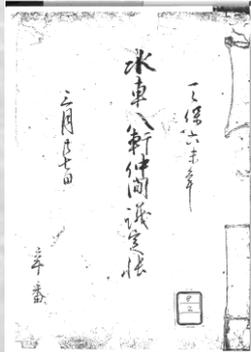


川崎市公文書館の「古文書講座」では、このように暗記のみに頼らない、他とは一風変わった古文書の解読を皆様にお届けしています。

# 講座・講演会 後記

— 中級古文書講座を終えて —

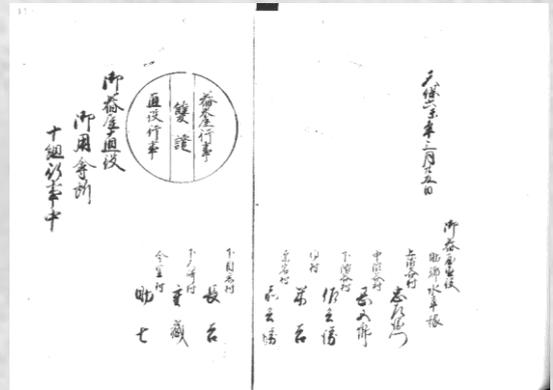
令和7年10月11日、18日、25日（土）に川崎市生涯学習プラザ 301 会議室にて、中級古文書講座を実施しました。題目は、王禅寺村（現麻生区）にて名主を勤めていた志村家を使用し、水車稼ぎと江戸の職人との関係性がわかる古文書を読みました。



私は江戸と周辺農村における精米業に関する研究を行っており、同資料も学生時代に扱ったもので、当日は江戸時代の精米業の関係を解説しました。

講座で扱った「水車八軒仲間議定帳」は、江戸の白米小売り

業者である春米屋が江戸周辺農村にある水車稼ぎに精米の下請けをしていたことから始まります。この取引が問題であるとして、江戸の精米職人である大道米春が水車稼ぎから春米屋へ移送中の白米を取押えたことにより、争論へ発展しました。元来、江戸周辺農村から勝手に白米を江戸に輸送することは禁止されており、それと見間違えた大道米春が起こした事件とされますが、実際にはこの事件が起こる前に周辺農村から江戸への輸送が時限的に許可されていたことにより規制が緩みつつあることから発生した権利問題でもあったのです。



使用した資料は、あくまで争論の結果と途中の内容のみが記載されていたため、時折当時の様相を図示して説明を行い、争論の争点はどこなのかというのも含めてお話をさせていただきました。初日は古文書の内容を中心に進めましたが、2日目以降は一字ずつわかりにくい字を中心に、筆順を踏まえて説明をしました。

最後には、質問の時間を設け、資料について、江戸時代の米のお話など参加者と話し合いながら終わることができました。受講者の方もみなさん意欲的に取り組んでくださり、質疑も多く、非常に充実した時間を送ることができました。今後も川崎市公文書館には、歴史を通じて人と人が繋がる機会を継続して作っていただきたいと思っております。

（埼玉県立歴史と民俗の博物館学芸員 小松和史）

## 古文書講座 テキスト販売中！！

川崎市公文書館では、過去に開催された古文書講座のテキストを、窓口にて 500 円で販売しています。

販売しているのは、平成 28 年度～令和 7 年度にかけて開催された古文書講座のテキスト・解答です。お立ち寄りの際は、窓口にてお気軽におたずねください。

窓口にて販売中！！



令和7年度 中級古文書講座テキスト(表紙)

# 出来事とお知らせ

## ■今後の行事予定

### 第二回 入門古文書講座 ステップアップ編

- 【開催日】 令和8年1月24日(土)、31日(土)
- 【時間】 14時～16時
- 【場所】 川崎市生涯学習プラザ301会議室
- 【講師】 舟津悠紀(当館職員)
- 【定員】 30名 【受講料】 1500円(テキスト代含む)
- 【申込方法】 LoGo フォーム(ペ1月8日(木))  
(その他、往復はがき・来館)



詳細はコチラ!

### 歴史講演会

- 【開催日】 令和8年3月8日(日)
- 【時間】 14時～16時
- 【場所】 東海道かわさき宿交流館
- 【テーマ】 「田中丘隅における文芸と経済」
- 【講師】 小室正紀氏(慶応義塾大学名誉教授)
- 【定員】 100名(当日先着) 【受講料】 無料

川崎宿本陣役で名主でもあった田中丘隅(1662-1729年)は、経済は市場とそこで生きる農民や商人に任せの方がよいという、大変に新しい考えを書き残した人として有名です。なぜ丘隅は、そのような考えを持ったのでしょうか。その点について、この講演では当時盛んになってきた俳句と新たな漢詩の考え方が影響していることをお話します。文芸は経済にも影響するという話です。

## ■令和7年度の主な活動

- 4月 第19回 企画展「川崎市誕生！」(1日～9月30日)  
第4回 「川崎の歴史の本」編集懇談会(22日)
- 7月 第5回 「川崎の歴史の本」編集懇談会(17日)  
「れきしのナゾに挑戦！」ワークショップ  
(19日、21日、26日)
- 8月 福田市長へワークショップの取材結果報告(1日)  
入門古文書講座(夏)(2日、9日、23日)
- 9月 第1回 入門古文書講座ステップアップ編  
(20日、27日)  
第6回 「川崎の歴史の本」編集懇談会(24日)
- 10月 第20回 企画展「川崎と国勢調査」  
(1日～令和8年3月31日)  
中級古文書講座(11日、18日、25日)  
[講師] 小松和史氏(埼玉県立歴史と民俗の博物館 学芸員)  
「川崎の歴史の本」アンケート(12日、18日、19日)  
歴史講座「江戸後期の川崎と製塩業」(19日)  
[講師] 落合功氏(青山学院大学教授)

- 11月 小展示 vol.6 「川崎」を探せ！ランキングの江戸時代  
(1日～)  
「川崎の歴史の本」アンケート(2日、8日、16日)  
入門古文書講座(冬)(29日、12月6日、13日)

## ■開催中の展示

### 【常設展】

- ① 川崎市公文書館 -川崎市公文書館の役割-
- ② 川崎市域の変遷 ~川崎市の成り立ちとその広がり~
- ③ 公文書の変遷 ~近世から近現代まで~

### 【企画展】

第20回 川崎と国勢調査

### 【小展示】

Vol.6 「川崎」を探せ！ ランキングの江戸時代

### 【特設コーナー】

「市史」の時代 -市制40周年の『川崎市史』編さん事業-



### 【利用案内】

開館時間 8:30-17:00

休館日 ①月曜日、②祝日法に定める休日(休日が月曜日に当たるときは翌日も休館)、③年末年始(12月29日から1月3日)

6頁の解答 ①の(能)、②の(能)、③す(春)、④す(春)、⑤か(可)、⑥す(須)、⑦り(里)